

»» 第1回城東北部 報告書

まちづくり 話し合い ひろば

参加 21名

2023.5.17

総合区民センター

13:30~15:30

「まちづくり話し合いひろば」では、日頃から感じていらっしゃる地域の福祉課題や強みを念頭においていただきながら、「福祉のまちづくり」のアイデアを出し合います。そのアイデアを第五次地域福祉活動計画の中に盛り込むことで、実際の活動へとつなげ、広げていくための機会とします。



ワークショップ 地域のいいところ

1班



①街の環境：自然、公園、買い物できる場所が多い。②交通：バスが走っていて交通の便が良い。③町会・自治会：まとまっていてコミュニケーションが取れている。④助け合い：高齢者のサポート、ゴミ捨ての助け合いがきちんとできている。⑤人とのつながり：すごくできている。下町の情報、インドをはじめとした外国の方ともコミュニケーションが取れている。⑥施設：図書館や児童館が整っている。⑦食...おいしいお店が多い。夕方になるとスパイスの良い香りが漂う。

①人との関わり・人情：人柄が良い。共助の心がある。②交通：便が良い。外出時にはバスや電車、高速道路が近くて便利。③公園・緑：JKKの住宅の中にも子どもが遊べる広い公園がある。通りから中に入れば静か。④買い物...利便性が良い。⑤施設・自治会...70%を超える加入率の自治会もある。少子化なのに保育園・幼稚園が合わせて3つもあるので子育て世帯が多く移り住んでいる。

2班



3班



①利便性：総武線と都営新宿線と横に2本鉄道あり、縦はバスが頻繁に走っていて便利。大島は横に長いので駅が3つもありいい場所。②生活：スーパー、商店がたくさんあって生活がしやすい。亀戸には大型の商店も充実している。高齢者の方も多く元気に過ごしている。戸建てを買った若い方も増え小学生が増えていく。昔ながらの下町情緒、近所付き合いも残っている。③施設：区の施設が充実している。病院、クリニック、学校、保育園等も多い。

4班



①人との触れ合い：挨拶がすぐに返ってくる。野菜の育て方を聞いたらすぐに教えてくれる。②商業：発展している。商店街がしっかりしていて買い物が便利。銭湯がある。商店街や地域の会社がしっかりしているために、会社がスポンサーになって中央公園で花火をあげたりする等の地域貢献が生まれているのではないかと。③街・環境：亀戸天神、羅漢寺、梅屋敷といった歴史的な環境もしっかりと残っている。元々このあたりの地域は浮世絵等にも描かれたように、江戸の中心地から1日で楽しみに来て日帰りで帰ってくるといったエリアだったのでないかと。発展しつつのんびりしている雰囲気もあるのは、そのような歴史的な背景もある。

- 高齢になってごみ捨てるルールを守れなくなった方や、若くて守らないまた、外国人の方のごみ出しがうまくいっていない。
- 空き家がそのままになっている。また、集合住宅・雑居ビルの老朽化による治安悪化の懸念がある。
- シェアハウスになった元空き家の住民とのコミュニケーション不足。
- 集合住宅が増えている一方、若い人等は挨拶ができない。
- 独居高齢者が多くなりコミュニティづくりが難しくなってきた。
- 外国人とのコミュニケーションがとりにくい。
- 商店・銭湯の閉鎖で不便さが出てきた。
- マンション内の住民同士でも挨拶をしても返事が返ってこなかったりする。関わりが薄くなっている。災害時助け合えるのか不安。。
- 町会・自治会...会長・役員等のなり手がおらず負担が増えたり組織が続かなくなっていたりする。
- 高齢者や障害者にとって水害での避難は不安があると思われる。



まとめ



本日は、「地域のいいところ」と「地域の困りごと」をセットで考えました。そうすることで「地域の強みや」「地域の弱み」を浮かび

上がらせることができました。今回を基に、7月19日の2回目では、他の区全体の調査などの課題と突き合わせて振り返りを行います。

今日の「地域のいいところ」と「地域の困りごと」で出たご意見をもとに、次回2回目のワークショップでは「6年後にこうなったらいいなあ」と思う地域の目指すべき姿のビジョンを挙げていただき、共有し、個人でできる事、地域でできる事の目標を導き出したいと思います。

地域福祉活動計画担当 井上博



印象深かったのは、とても急激に発展していく街を支える伝統があったり、1グループの渡辺さんが外国籍の住民の方を「宝」と表現されていて、新しいもの・異質なものと、旧来のものが反発し合わずに融合し合っていく動きがあるのだと感じた。そこで緩衝材になっている動き、土台になっている動きがきっとこの地区の、そして江東区の宝になっているのだと改めて思った。社会資源はこれから爆発的に増えていくものではないが、今あるものをニーズに合うようにリメイクしたり、組み合わせたりする中でどのように課題を乗り越えていくか、社協や専門職の方も一緒に、これから新しい変化や地域のビジョンを第2回以降に皆さまがどう作っていくのか注目したいと思う。引き続きよろしく

お願いする。



高崎健康福祉大学
健康福祉学部 岡田哲郎 講師